第32号
令和8年10月発行
2026.Oct.

剣脈



▲八女大茶園から遠くに有明海・多良岳を望む

公益社団法人
福岡県剣道連盟

〒812-0045 福岡市博多区東公園８番３号 福岡武道館内
TEL:092-712-1890 / FAX:092-712-1891

会長挨拶



公益社団法人　福岡県剣道連盟
会　長　青柳　俊彦

さらに開かれた剣道を目指して

令和八年度も折り返しを過ぎました。会員のみなさまにおかれましては、猛暑を乗り越え、稽古や若い方へのご指導に励んでおられることと思います。みなさまのご協力のもと、上期の各事業を無事に遂行できましたことを心より感謝申し上げます。

さて今回は「さらに開かれた剣道を目指して」という視点でお話をさせていただきます。

今後も当連盟が持続的に発展し、より広く親しまれる活動を行うためには、時代に即した変革が不可欠であり、直近数年の間に、運営体制や財務体質の見直しに取り組んでまいりました。

まず、役員構成の見直しです。二つのポイントがあります。

まず一つ目です。一昨年度の総会にて、役員の任期や年齢の上限についての問題提起をいただきました。以降、全日本剣道連盟や他都道府県剣連の事例も参照し昨年度、役員選任規則を制定しました。これにより定期的な役員の交代を制度として確立し、新たな視点をより取り入れやすくなりました。

今年度の総会では、実際に同規則に基づいて役員改選を実施しました。

ついで二つ目のポイントです。今回の役員改選では、さらに多様な意見を反映するため、公益法人認定法改正に伴う外部理事・外部監事のほか、関連団体である九州実業団剣道連盟からの理事の選任を承認いただきました。外部の知見や実業団剣道の声を積極的に取り入れ、これまで以上に開かれた組織づくりを進めてまいります。

続いて、財務面の安定と健全な運営基盤の確保です。物価や人件費の高騰が続く中で、会員のみなさまには心苦しい限りですが、昨年度より経過措置を講じつつも個人会費、段位の審査・登録料の見直しをさせていただきました。また、昨年度より企業を中心とした賛助会員の拡大に注力し、貴重な収益基盤となりました。賛助会員のみなさまには前年度の当連盟の活動内容をご報告することでご理解をさらに深めていただき、引き続いてのご支援をいただいております。今後も必要な事業は着実に行いつつ、収入の確保とともに支出内容の見直しに努め、持続可能性のある財務基盤の構築に努めます。

最後に、現場におけるコンプライアンスの徹底、特にハラスメント防止や暴力禁止は極めて重要です。全剣連の指導の心構えにある礼法には「相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んずる指

目次

会長挨拶……一
連合地区剣道連盟通信……二
居合道通信……三
杖道通信……四
各域からのご報告……五
ご報告……八
なでしこ通信……十
道場紹介……十二
令和八年度
玉竜旗高校剣道大会……十四
医科学安全委員会だより……十七
広告……十八
昇格・昇段……十九
編集後記……二十三

導に努める」とあります。
剣道は勝敗がすべてではなく、健全な人間形成を育む場です。
今後を担う若い世代をはじめとする指導や育成の場において、様々なご苦労があると察します。ただ、教わる側の一人ひとりの状況をしっかりと見極め、相手に寄り添った細やかな指導をお願いいたします。
今後も福岡県剣道連盟は、剣道の魅力を正しく伝え、より広く開かれた剣道を目指してまいります。今年度も下期に入りました。引き続き、会員のみなさまの一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



連合地区剣道連盟通信

◆福岡連合地区 福岡剣道連盟



福岡連合地区剣道連盟
事務局長
中嶋 裕二

令和八年度 福岡連合地区剣道連盟事務局の取り組み

今年度、福岡連合地区剣道連盟事務局は、十四年ぶりに体制の刷新を迎えました。
この新たな一歩を踏み出すにあたり、まず深く敬意を表し感謝すべきは、十四年間の長きにわたり本連盟を担い、強固な基盤を構築してスムーズな引き継ぎを行ってくださった前任の常任理事の先生方の多大なるご貢献です。
原博生前会長、そして特に事務局の要として多大なるご尽力をいただいた但馬雅樹前事務局長、平井直前会計、妹尾健太郎前事務員をはじめとする前体制の皆様の献身的な支えがあったからこそ、今日の連盟の発展があります。
また、本年度からは前理事長であり、私の幼少期からの剣道の恩師でもある山内正幸先生が新会長に就任されました。
そして、常に我々をリードしていただいている新理事長の藤森晋作先生は、高校の二学年上の先輩でもあります。これまでのご縁の中でご指導をいただきながら、新たな体制で業務に取り組んでいけることに感謝しています。
私たちは、諸先輩方が築き上げてこられた歴史と伝統を大切に受け継ぎながら、本年度の具体的な取り組みとして、連合地区合同稽古会の改革に着手いたしました。
従来の合同稽古会は、毎月第三水曜日に福岡市総合体育館において固定で開催されていました。長年の取り組みには大きな意義がありましたが、地域や仕事などの事情によって遠方まで足を運ぶことが難しい会員も少なくありませんでした。
そこで、今年度より地区内の十一地域による「持ち回り開催」へと形を改め、開催日時や会場、稽古内容の決定についても、各担当地域の裁量に委ねる運営方式へと移行しました。
この見直しの結果、コロナ禍以降は平均十五・五人であった参加者数が、令和八年度の四月から八月までの直近五回平均では三十二人となり、約二倍に増加するという具体的な成果が得られました。それぞれの地域が主体となって知恵を出し合い、工夫を凝らすことで、新たな稽古の活気が各地に生まれております。
今後も、前任の先生方が築かれた素晴らしい功績への感謝を忘れることなく、山内新会長、藤森新理事長のもと、各地域の剣道連盟の皆様と緊密に連携を取りながら、事務局としての職務と実施経過を着実に積み重ねていく所存です。会員の皆様のご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

居合道通信



居合道部 理事
教士七段
横田　靖子

広がる居合道の輪

近年、福岡県剣道連盟居合道部では小中学生の入会が増え、それに伴い親子やご家族で稽古に励まれる姿も多く見られるようになりました。その変化を最も実感するのが県大会です。以前は参加者が少なく少年の部がリーグ戦で行われておりましたが、近年参加者が増え、トーナメント戦が組まれるまでになっています。少年の部の活気からは、福岡県の居合道が着実に広がりを見せていることを実感します。

私が所属する北九州居合道同好会でも、現在四組のご家族が親子で居合道に取り組まれています。親の姿に憧れて子どもが入会したり、子どもの頑張る姿をきっかけに親が始めたりと、そのきっかけは様々です。

我が家もその一つで、夫婦と子どもたちが共に稽古を続けています。親子で同じ目標に向かって努力し、喜びや悔しさを分かち合える事は家族で同じ道を歩むからこそ得られる大きな喜びです。私自身も父の影響で居合道を始め、父が存命のころは親子三代で稽古に励んでいました。今では、その時間は家族にとってかけがえのない思い出となっています。

私たちは、子どもたちに技術だけでなく、礼儀や思いやり、努力を積み重ねることの大切さも伝えられるように心がけています。また、年齢や職業の異なる先生方や先輩方と共に稽古を重ねることで、人を敬う心や感謝の気持ちも自然と育まれています。幅広い世代が同じ道場で学び合い、お互いに高め合えることは、居合道ならではの大きな魅力だと感じています。

子どもの会員が増え、親子で居合道を楽しむ仲間の輪が広がっている今、この良い流れを一過性のものにすることなく、県内の仲間とともに大切に育てていきたいと思います。

子どもたちの笑顔と真剣なまなざしは福岡県の居合道を明るく照らしてくれています。

私自身も福岡県剣道連盟居合道部の一員として子どもたちが安心して稽古を続けられる環境づくりに微力ながら努め、居合道の魅力を次の世代へつないでいきたいと思います。



初心者稽古風景

杖道通信



杖道部
広報委員
鬼木　正道

杖道部活動報告

令和八年度の活動が始まり、今年度も四月の福岡県武道祭、五月の京都大会、杖道八段審査会が終わりました。

八段審査会では、矢ヶ部龍一郎先生が昨年度の金村真理先生に続き見事合格、福岡県より二年続けて杖道八段合格者が出たことは大変喜ばしい事です。

杖道部では、新年度より富永彰三先生が会長職を勇退なされ、新会長福田博文先生のもと活動を開始しました。六月十四日に県杖道昇段審査会が早良区ももち体育館で行われ級審査七人、段位審査二十四人が受審し、級審査は全員合格、段位審査は二十三人が合格しました。同月二十七日には県講習会が福岡市総合体育館で行われ、五十三人が参加し、四人の八段の講師による講習に朝より終日熱心に取り組みました。

午前中は福田会長より基本技の単独動作（杖のみで行う）、相対動作（仕杖と打太刀で行う）についての細かい説明が行われ、内容の再確認がなされました。

午後は全日本剣道連盟杖道十二本の要点について説明が行われ、それを踏まえて参加者による実践、内容の確認が行われました。

参加者には各々の課題の確認が為されたと思います。

七月二十六日は第四十五回福岡県杖道大会が久留米スポーツセンター武道場において開催されました。長崎、熊本、鹿児島、山口の県外からの参加もあり、個人戦、団体戦が行われました。

個人戦は少年之部、無段、初段～六段の各部に分かれ、団体戦は各チーム三人一組で参加し、トーナメント戦を行い、其々が修練の成果を披露しました。結果は以下の通りです。

大会結果

◎少年之部
優　勝：松丸美海子（大牟田杖道会）
第二位：志田　湊典（八幡杖道会）
第三位：志田　悠実（八幡杖道会）
敢闘賞：松丸樹々香（大牟田杖道会）

◎無段之部
優　勝：八尋　大和（朝倉杖道会）
第二位：福田　樹（博　錬　会）
第三位：安野　啓一郎（長崎杖道会）

◎初段之部
優　勝：荒田　真生（博錬会いちき）
第二位：柏木智恵子（水俣博錬会）
第三位：平川　響（粕屋杖道会）

◎二段之部
優　勝：曾　暁（八幡杖道会）
第二位：東　翔太朗（長崎成杖会）
第三位：古薗　昌也（あしたの杖道会）

◎三段之部
優　勝：波止　武徳（明徳館道場）
第二位：永芳　信彦（千代剣友会）
第三位：川崎　瑞枝（山口県剣道連盟）

◎四段之部
優　勝：平川　翼（粕屋杖道会）
第二位：川崎　理子（千代剣友会）
第三位：川崎　啓太（千代剣友会）

◎五段之部
優　勝：井上有紀子（千代剣友会）
第二位：金子　良太（八幡杖道会）
第三位：柿本由貴美（博　錬　会）

◎六段之部
優　勝：オリビエ・バイヤル（剣　杖　塾）
第二位：荒木　正亨（明徳館道場）
第三位：森山亜矢子（水俣博錬会）

◎団体之部
優　勝：明徳・粕屋
第二位：千代剣友会Ａ
第三位：千代剣友会Ｂ

全剣連主催にて八月二十八日に杖道六段、七段中央審査会、二十九日、三十日には杖道中央・地区講習会が福岡県で開催されました。この事は又、次の機会にご報告したいと存じます。

九月二十六日には横浜で第五十三回全日本杖道大会が開催されます。

以上、新年度に入ってからの活動報告を終わります。



県大会閉会式



六段之部決勝の模様

各域からのご報告



福岡県中学校体育連盟
剣道専門部長
大森　靖雄

令和年八度第六十九回 福岡県中学校剣道大会を終えて

福岡県チャンピオンの座と全国大会、九州大会への出場権をかけた令和八年度福岡県総合体育大会第六十九回福岡県中学校剣道大会が七月三十日（木）・三十一日（金）の二日間、岡垣サンリーアイウエーブアリーナにて開催されました。

県内六地区から厳しい予選を勝ち抜いた精鋭の中学生による戦いは、見るものに感動を与え、全ての人の記憶に残る素晴らしい戦いの連続でした。

男子団体の部では、八女学院中、飯塚日新館中、糸島剣道クラブ、老司中、城山中、天拝中、直方第二中、大木中の八校が、女子団体の部では、老司中、古賀中、春日野中、筑後中、糸島剣道クラブ、花畑中、須恵中、上陽北汐学園の八校が予選リーグを突破し、決勝トーナメントに駒を進めました。

大会結果は次の通りです。

大会結果

◇男子団体の部◇

優　勝：八女学院中学校（筑後）
準優勝：飯塚日新館中学校（筑豊）
第三位：糸島剣道クラブ（筑前）
　　老司中学校（福岡）



男子団体の部
優　勝　八女学院中学校



男子団体の部
第三位　糸島剣道クラブ



男子団体の部
準優勝　飯塚日新館中学校



男子個人の部
入賞者

〈男子個人の部〉
優　勝：山科　魁星（八女学院中）
準優勝：池田　獅（老司中）
第三位：関　翔太郎（三国中）
　　元永　康介（飯塚日新館中）



男子団体の部
第三位　老司中学校



女子団体の部
優　勝　老司中学校

◇女子団体の部◇
優　勝：老司中学校（福岡）
準優勝：古賀中学校（筑前）
第三位：春日野中学校（筑前）
　　筑後中学校（筑後）



女子団体の部
第三位　春日野中学校



女子団体の部
準優勝　古賀中学校



女子個人の部
入賞者

〈女子個人の部〉
優　勝：髙木里衣紗（八女学院中）
準優勝：藤田　桜都（春日野中）
第三位：梁瀬　莉央（花畑中）
　　内東　優月（老司中）



女子団体の部
第三位　筑後中学校

高校剣道夏の三大大会を終えて



福岡県高体連
剣道専門部専門委員長
藤島　清隆

この度、前専門委員長畑江秀彦先生の後任として福岡県高体連剣道専門部専門委員長に就任いたしました。

剣道専門部専門部長の筑紫台高校金森靖二校長の指導を頂きながら福岡県高体連剣道専門部のさらなる発展に寄与していく所存でございます。

福岡県剣道連盟すべての先生方のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

さて、令和八年度高校剣道夏の三大大会が終わりました。全国でも類を見ないほどの激戦県福岡。

その予選を勝ち上がり、九州全国の場で「福岡」の代表として素晴らしい活躍をみせてくれた選手や学校を紹介させていただきます。

大会成績

〈7月〉全九州高校剣道大会

【男子団体】　優　勝　福岡第一　　ベスト8　東福岡
【女子団体】　ベスト8　中村学園
【男子個人】　準優勝　留場選手(福大大濠)　ベスト8　野中選手(福岡第一)
【女子個人】　準優勝　牛嶋選手(中村学園)　第3位　木原選手(中村学園)
　　ベスト8　横尾選手(福岡第一)　ベスト8　金松選手(福翔)

〈7月〉玉竜旗高校剣道大会

【男子団体】　優　勝　福大大濠(三年連続優勝)　第3位　福岡第一　東福岡　ベスト8　八女学院
【女子団体】　優　勝　中村学園　　ベスト8　筑紫台

〈8月〉全国高校剣道大会

【男子団体】　優　勝　東福岡
【男子個人】　優　勝　橋本 大治選手(東福岡)
【女子団体】　優　勝　中村学園

伝統の玉竜旗と全国高体連最高の舞台であるインターハイ団体で福岡県勢のアベック優勝。また男子個人の優勝、さらには剣道王国九州のその最高峰を決める九州大会でも福岡県勢の優勝、と本当に素晴らしい活躍、成績を上げてくれました。監督・顧問・保護者・部員すべての関係者に心よりお祝いを申し上げます。

それに加えて私自身、各大会でのこの福岡県代表の活躍は「福岡県高体連」全体の実力であると考えています。

予選を勝ち上がれずとも必死に稽古に励み「次」に向けて汗を流す高校生剣士、予選突破を目指し日夜指導に明け暮れた先生方、必死の思いで我が子や剣道部を支援して頂いた保護者の皆様、すべての力が結集した結果が今回の実績につながったと思っています。

全国大会・九州大会の代表になれなかった高校三年生、玉竜旗で上位に進出できなかった高校三年生、また各種大会に出場できなかった高校三年生、君たちの剣道はこれからです。

君たちの奮闘に心より敬意を表し高体連専門委員長の報告とさせて頂きます。



福岡県警察
剣道師範
原　　忠生

福岡県警の活動報告について

はじめに、日頃から福岡県警察剣道特別訓練員の活動に対し、深いご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

令和八年度現在までの福岡県警察剣道特別訓練員の活動状況について、ご報告いたします。

五月三十日・三十一日に東京武道館で開催された「第一回アジア・オセアニア剣道選手権大会」に日本代表として妹尾舞香が出場し、日本女子団体の優勝に大きく貢献しました。

来年、東京で開催される世界大会に向けても、さらなる活躍が大いに期待されます。

四月十九日に開催された国民スポーツ大会選手選考会では、成年男子の部において「先鋒」池田龍、池田虎、田城、「次鋒」望月、百田、水田、「中堅」富松、松﨑、國友、「副将」森の十名が強化指定選手となりました。また、成年女子の部では「先鋒」妹尾、柿元、「中堅」糸山の三名が強化指定選手となり、青森県で開催される国民スポーツ大会に向け、毎週土曜日の県剣連強化訓練に励んでおります。

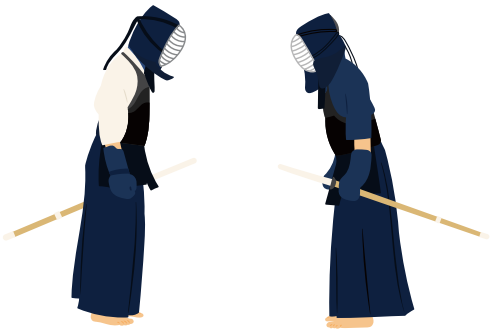
六月二十日に開催された全日本女子剣道選手権予選では、優勝 柿元、二位 妹尾という結果となり、また六月二十一日に開催された全日本選手権予選では、優勝 國友、二位 池田虎、三位 池田龍、四位 田城と好成績を収めました。

今年も十一月三日、日本武道館で男女同日開催される全日本剣道選手権大会に男女合わせ五名の選手が福岡県代表として出場いたします。

全国の強豪が集う大舞台での、さらなる活躍を期待しております。

七月八日に新福岡武道館で開催された九州管区内警察剣道大会では、男子団体戦が六人制の八県総当たりリーグ戦で実施され、選手一人ひとりが十分に実力を発揮し、七戦全勝で二年連続優勝を成し遂げました。三人制の女子団体戦は、四県によるリーグ戦を二勝一分けで勝ち上がり、決勝トーナメントでは準決勝、決勝ともにチームワークを存分に発揮して勝利し、二年ぶりの優勝を勝ち取りました。

最後になりますが、今後開催される各種大会に向け、選手と指導者が一枚岩となり、目標達成に向け一層努力してまいります。今後とも、皆様の温かいご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



ご報告



久留米市剣道連盟
剣道教士七段
末次　　輝

中堅剣士講習会を受講して

私は六月十二日から十四日まで、奈良県で開催された中堅剣士講習会に参加しました。

この講習会は、以前は「柳生の講習会」と呼ばれていました。私が小学生の頃、父も参加しており、柳生から帰ってきた父が「きつかったが、とてもためになる講習会だった」と話していたことを今でも覚えています。そんな思い出を振り返りながら、期待に胸を膨らませて参加しました。

講習会では、真砂会長自ら剣道の理念や剣の理法についてご説明くださいました。剣道の根底にある考え方を改めて学ぶことができ、自分自身の稽古だけ

でなく、指導者としても大変重要な内容でした。

一日目は、素振り、切返し、打込み、掛かり稽古など、基本を中心とした指導を受けました。しかし、初日から左腕と左足はパンパンになり、これまで自分がどれほど楽な稽古をしていたのかを痛感しました。

二日目は、コンプライアンス、日本剣道形、剣道基本技稽古法に続き、基本稽古や技の稽古を行いました。最後に行われた区分稽古法は、地稽古に続いて面打ち、打込み、掛かり稽古、切返しを連続して行う厳しい稽古法でした。回を重ねるごとに疲労が蓄積し、身体的にも精神的にも厳しさを感じました。

その中で、松田範士から「疲れて背中が丸くなっては意味がない。そんな時こそ姿勢を正し、呼吸を整えなさい。背中と左足がピンと張った構えを心掛けなさい」とのご指導がありました。

実際に背筋を伸ばし、気・剣・体の一致を意識すると、苦しい中でも打突に集中できることを実感しました。また、掛かり手と元立ちがお互いに声を出し、気を合わせて稽古することで、苦しい稽古を乗り越える力と一体感が生まれることも学びました。

最終日は審判法の指導を受け、三日間の集大成となる最後の稽古に臨みました。素振り、切返し、地稽古、区分稽古法まで全てをやり切り、最後は背筋を伸ばし、呼吸を整えながら蹲踞し、竹刀を納めました。

閉講式後、一同礼を終えると自然と拍手が湧き起こりました。その拍手には、三日間の厳しい稽古を乗り越えた達成感と充実感が込められていたように感じます。

今回の講習会を通じて、剣道の技術だけでなく、理念や理法、そして指導者としての在り方を学びました。特に、苦しい時こそ正しい姿勢と呼吸を保つこと、仲間と気を合わせて稽古することの大切さを実感しました。

今回学んだことを自身の修行と後進の指導に生かし、中堅剣士としての自覚と責任を持って、これからも剣道の発展に努めていきたいと思います。

来た、来た優勝!!



福岡県高齢剣友会
事務局長
青木　政広

六月八日、日本武道館で開催された第四十八回日本高齢者武道大会で念願の優勝を勝ち取りました。昨年、一昨年と三位が続きました。県強化目標同様に常にベスト四を目指し精進してきました。

先鋒 林田和行（大牟田）、次鋒 佐藤倫明（筑紫）、中堅 田尻秀博（宗像）、副将 那須孝明（筑紫）、大将 谷矢隆男（筑紫）、で臨みました。

一回戦京都に一勝四分、二回戦香川に一勝四分、三回戦神奈川に二勝一敗二分、準決勝愛知に二勝二敗で代表戦勝利。

決勝新潟に四勝一敗で完勝いたしました。

京都には中堅 田尻選手が上段から小手を決め、香川には次鋒 佐藤選手が面を決めました。神奈川には二勝一敗で迎えた大将 谷矢選手が引き分けて三位確定、準決勝愛知には先鋒次鋒と一本負け、中堅 田尻選手は開始すぐに小手を取るも、小手を返されたが面を決めました。副将 那須選手は小手を決め同点同本数の大将戦、相手が少しやり難いタイプで谷矢選手慎重に応じ引分代表戦延長二回後飛込面で決勝へ。決勝新潟には先鋒一本勝次鋒中堅は二本勝と前三人で優勝を決め四対一でした。

女子は昨年初めて参加し、緊張し力を発揮できず一回戦で敗れました。

今年は先鋒 滝野園美（遠賀中間）、中堅 今井薫美子（城南）、大将 永沼真紀（東）で臨み、一回戦不戦勝、二回戦茨城に三勝、三回戦兵庫に一勝一敗、本数勝ちで、準決勝は優勝した愛知に三引分、代表戦で先鋒 滝野選手が小手を打たれ敗れ三位となりました。先鋒 滝野選手は昨年負けたことで今年はかなりの稽古量を積み七段も合格した結果だと思います。今井・永沼両選手は内容のある試合展開だったと思います。

個人戦は二十人エントリーしてベスト八に二名、七十五歳～七十九歳特組で佐伯勝行副会長（直方鞍手）が優勝されました。七試合一本も取られず完勝でした。特に四回戦は八年前に準決勝で敗れた相手に小手を決めた試合が印象的でした。

さらに、九月十三日、兵庫県赤穂市で行われた兵庫県高齢剣友会創立十周年記念　第一回関西高齢者親善剣道大会において、男子団体優勝、女子団体準優勝の結果を得ることができました。これも選手の弛まぬ努力はもちろん、日頃からともに稽古に励む剣友の皆様、そして家族の支えがあってこそと、選手一同感謝しております。

高齢剣は現在会員八十九名。年六回の稽古、昨年は日本剣道形講習も実施しました。

ぜひご入会を（五十五歳以上の男女）ご希望の方は 事務局 青木政広 〇九〇ー五七二八ー八八四五まで。





なでしこ通信



早良女会
世話人
剣道錬士 六段
澤　明美

「早良女会（さわらめ）」の歩みとこれから

四十年ほど前、剣道を学ぶ子供たちの母親が集まり始めた「しらさぎ会」で、当時から稽古をしていらっしゃった、故小倉欣子先生が早良区剣道連盟発足後、「早良女会」と名称を変え会を立ち上げられました。今年二月に亡くなられた角先生を始め、故松﨑先生、鍋山先生など早良区を支えてこられた先生方のご指導を頂き、現在は澤先生、福永先生のご指導のもと稽古をしています。

当初は、早良区、西区で少人数でしたが、それぞれの道場で稽古をしている女性が共に剣道を学びたいと仲間が増えました。何よりも、三年前八十歳で七段に昇段された坂本千賀子先生の存在が大きな励みになっています。早良区会員に限らず、初心者経験者を問わず、剣道を愛好する女性であれば大歓迎です。ここ二・三年は女性の七段の池本先生、今井先生、親川先生が、城南区のメンバーに声をかけてくださり大勢の参加があります。また早良区のホームページや口伝えで他の区からの参加も増え、毎回二十～二十五名の参加があります。

稽古会は、毎月第三金曜日、百道体育館剣道場で夜七時から約一時間半ですが、何よりも基本に重点を置いた稽古をしています。まずは摺り足で腰を入れ左足を引き付ける事を意識した基本打ち、女性に適した応用技等を学び、また木刀による基本稽古法、日本剣道形も取り入れています。踏み込み足での稽古後、地稽古で終了です。

その後のミーティングでは、女性ならではの悩みや課題、上達法などを話し合います。稽古後のお喋りも花が咲き充実した楽しみな稽古会となっています。

仕事、家事、育児、介護と忙しい中で、剣道を通じて剣道本来の相手を思いやる精神を大切にし

ながら、技術の向上だけでなく気持ちを共有することで縁が深まっている「早良女会」を、先輩方の思いを受け継ぎ、これからも女性剣士の協力のもと大切な稽古会として継続していきたいと思っています。



集合写真



稽古風景



杖道部女性の活動報告



杖道部
杖道教士七段
伊橋　淳子

此の度、剣脈誌に於いて、剣道、居合道、杖道其々の女性の活動について継続して掲載するとの事ですので、先ずは現在の福岡県杖道部の女性の活動と杖道の良さについてご報告致します。

現在、福岡県杖道部は百八十人の登録が有り、その内女性は四十六人、女性最年少者が九歳、最年長者が七十九歳、女性の高段者は八段二人、七段八人、六段五人と言った状況です。

杖道は形武道の為、老若男女を問わず、其々のペースで取組むことが出来ます。本来、形稽古とは江戸時代より継承された稽古方法で先師より受け継がれてきた形を何度も繰り返し、正中線、体構えや体捌き、重心意識等を基本とした、術を身につけることです。物理的な速さや力ではなく、術技的な速さ、鋭さ、強さが求められます。基本となる形を大事にして、一つ一つの動きを丁寧に身に付けることが大切だと感じています。基本である形で術技を身につけ、応用として命の遣り取りである実戦となりますが、現代では応用は有り得ません。

大会も形演武により優劣を競います。形の内容の正確さ、練度、気迫等により優劣が判定され勝敗を決めます。大会は段位ごとに行われますが、男女の区別無く行われます。然し、体力に勝る男性が優位になるとの事は有りません。身に着けた術技を競うものです。むしろ、男性は力に頼りやすく、そのために動きが固く、ぎこちなくなり、技の速さ、鋭さが落ちる事があります。

一方、女性は力に頼らない分、技に柔らかさがあり、素直な杖の打突や太刀の斬りを行い、見事な演武を行うことも有ります。

実際、全日本杖道大会の各段位に於いて、女性の入賞者が見られます、それは低段之部だけではなく、過去に大会参加最高

位の七段之部に於いて何度も一位を獲得した実績が有ります。今年の福岡県杖道大会に於いても、少年、無段から六段迄の各部で女性が一人以上入賞しています。

この様に、誰もが取組める杖道は、特に女性にお勧めの武道と思います。世間では男女平等、男女機会均等等と言われていますが、世界中でも男女の区別なく大会が行われる競技はまだまだ多くはないのではないでしょうか。また、用いる道具は杖と木刀のみで繰り返し使用してもよっぽどの事が無い限り損失する事は有りません、稽古は野外で行うことも可能です、エコな面もあります。そうした意味では現代のニーズに合った武道であると思います。



道場紹介



明徳館道場
杖道錬士六段
中村　嘉雄

「師の前の稽古」
―明徳館道場紹介

「習い直し 何時も習いなおし
死ぬまで習いなおし
師はいつも目の前に・・・
日々習いなおし。
（心に留めおきて）」

秋涼の候いかがお過ごしでしょうか。明徳館道場の杖道代表を務めております中村嘉雄と申します。この度は明徳館道場をご紹介する機会をいただき心よりお礼申し上げます。

明徳館道場は初代館長、故波止成徳先生が四十八歳の折、昭和五十八年（一九八三年）に開かれました。脇田温泉入り口交差点から福岡市方面に少し進んだ所、春は駐車場を覆う一本桜が花咲、夏、無数の蛍が付近の犬鳴川の夜空を彩る、自然豊かな場所にございます。

その道場らしい言葉としてご紹介したのが冒頭のエピグラフ、先生が我々門下にお遺しになったお言葉です。全日本剣道連盟杖道委員長も務められた先生の杖は杖道経験者誰もが惚れ惚れするものでした。また道場で太刀を持たれれば杖持つ身体が自ずと震えその気に圧倒されました。ですが先生はご自身の杖に謙虚で、師弟の間ながら杖道の徒としての違いを感じたことはありません。「自ら研究し、習い直し続けること」の大切さを常に仰っておられました。特に波止道場らしいと思う箇所が「師はいつも目の前に・・・」のお言葉です。そこには二つの意味があると考えています。一つは、常に門下の我々が波止先生の教えを想い返し日々研鑽すること。そしてもう一つが、同じ道を進む者、誰でも「師」であるということです。先生は生前「他の人から教わりなさい」と事あるごとにおっしゃられておりました。小生は教員ですが、先生の「師」としての素晴らしさは決して自らを「師」と奢らず、「学び」に対して謙虚であり続けたことにあると常々思っています。

道場では波止先生の教えを想い返しつつ、また、先生に師事された諸先輩方、福岡剣道連盟杖道部の先生方の教えのもと、門下同士和気藹々と日々の稽古を楽しみつつ技の錬磨に励んでおります。杖道の稽古は水曜日ですが、木曜日、それ以外の曜日も杖の稽古をしております。お気軽に小生までご連絡をいただければご案内いたします。これからも明徳館波止道場をよろしくお願い申し上げます。



「初心者教室」で日本の伝統文化に触れる第一歩



居合道部
広報委員
廣房　憲治

居合道部では、毎年初心者教室を開催しています。目的は、一人でも多くの方に居合道の魅力を知っていただき、安心して始められる環境を提供することです。

教室は九月から翌年二月までの六か月間開催しています。教室の締めくくりとして、三月の昇級審査会で年齢に応じた級位を受審(任意)し、修了証と記念品を受け取って終了となります。

初心者教室の大きな特徴は、受講者一人ひとりを大切にサポートする体制です。稽古場所は受講者の希望をできる限り尊重しますが、稽古場所の指導者だけに任せるのではなく、役員、理事が専属アドバイザーとして教室修了まで継続してサポートします。困ったことや不安なことがあれば、いつでも相談できる安心の体制です。

教室修了後は、本人の希望を伺いながら、稽古の継続や所属道場の変更についても丁寧に対応しています。

居合道は年齢や性別、運動経験を問わず始められる武道です。

「定年退職後、新しい趣味を始めたい。」「これまで運動経験はないけれど、日本刀や武道に興味がある。」「自分のペースで無理なく続けられることに挑戦したい。」そのような思いをお持ちの方に最適です。居合道は他人と競う競技ではなく、自分自身と向き合いながら心と技を磨いていく武道です。それぞれの体力や生活スタイルに合わせて稽古を続けることができます。

現在活躍している会員の中には、この初心者教室をきっかけに居合道を始め、七段まで昇段された方もおられます。

居合道部では、これからも「誰もが安心して始められる居合道」を目指しています。





公益社団法人 福岡県剣道連盟
ホームページでも最新情報を公開中！

福岡県剣道連盟公式ホームページでは大会・審査会の最新情報や、各地域の動向を更新しております!スマートフォンにも対応しているので、是非ご活用ください!!

スマートフォン版は、こちらから読み取って下さい



玉竜旗大会 十人・五人抜き達成感想

十人抜き



福岡大学附属大濠高校
3年
森　慶輔

私にとって高校最後の大会となった玉竜旗高校剣道大会。先鋒として試合場に立った私は、一人、また一人と相手に向かい、結果として十人抜きという結果を残すことができました。十人目と向き合った時には、体はかなり疲れていました。それでも、「ここで負けるわけにはいかない」「最後まで絶対に諦めない」という気持ちは消えませんでした。ここまで一緒に戦ってきた仲間の姿を思い浮かべながら、最後の相手に向かいました。そして十人目に勝った瞬間、うれしさと同時に、「みんなとここまで来ることができてよかった」という思いが込み上げてきました。

この十人抜きを「自分が取った十人抜き」ではなく、「チーム全員で取った十人抜き」だと思っています。

そして私たちは、十人抜きだけでなく、チームとして玉竜旗の優勝を掴み取ることができました。玉竜旗は一人の力だけでは勝てません。試合に出る選手だけでなく、応援する仲間も含め、十六人全員がそれぞれの役割を果たし、同じ方向を向いて戦ったからこそ、優勝という結果につながったのだと思います。私たちのチームワークは、どこにも負けていなかったと胸を張って言えます。

応援してくださったすべての方々の支えが、私たちを強くし、最後まで戦い抜く力を与えてくれました。高校最後の大会で、先鋒として十人抜きを達成し、チーム全員で優勝を掴むことができたことは、一生忘れられない経験です。この経験を胸に、私たちはこれからも感謝を忘れず、歩みを止めず、次の世代へと想いを繋いでいきたいと思います。

五人抜き



新宮高等学校
2年
高岡　優弥

私は、五人抜きを一つの目標として玉竜旗に出場しました。

その中で五人抜きを達成できたことは、大きな喜びであるとともに、大きな自信にもなりました。目標としていた五人抜きですが、試合では先のことを考えず、目の前の一試合一試合に集中することを意識しました。すべての試合で自分の力を出し切ったことが、五人抜きにつながったのだと思います。

五人抜きをする中で、体力的にきつくなることもありました。その時、私の一番の支えになったのは、一緒に試合に出る仲間や、観客席にいる保護者、チームのみんなの応援です。多くの人たちが声を出して応援してくれたからこそ、最後まで気持ちを切らさずに試合をすることができたと思います。

これまで共に高め合ってきた仲間、指導してくださった先生方、そして応援してくれた保護者など、たくさんの人たちの支えがあって達成できた五人抜きでした。

この経験を糧に、これからさらに良いチームを作っていきたいです。



福岡常葉高等学校
1年
藤田　剣心

私は今回の玉竜旗大会で「先鋒の自分に与えられた仕事を全うして、一人でも多く相手を抑え、チームの勝ちに貢献すること」を目標に掲げて稽古に臨みました。

試合当日は大変緊張し、プレッシャーに押しつぶされそうにもなりましたが、先生方の言葉や仲間の激励のおかげで「今までやってきたことを信じて戦おう」と強い気持ちを持って試合に臨むことが出来ました。一戦一戦集中し、最後まで自分の剣道を貫くことで、結果として五人抜きを達成

することができました。連続の試合で厳しい場面もありましたが、勝っていくことで「今までやってきたことは無駄じゃなかった」と強く実感し、大きな達成感を得ることができました。

この目標を達成できたのは、日頃から熱心にご指導してくださる先生方、共に厳しい稽古を乗り越えてきた仲間、そしていつも一番近くで支えてくれた家族のおかげです。心から感謝しています。

この貴重な経験と自信を糧に、現状に満足することなく、次の目標に向かってこれからも稽古に励んでいきたいです。





小倉高等学校
3年
松尾　謙伸

五人抜きを達成した喜びも五人抜きをされる挫折を経験してきた中、今大会の三回戦、前四人が敗れた状態から自分を信じて五人抜きをしてチームを勝利に導けたことは本当に嬉しかったです。監督の末廣先生には感謝しかありません。



自由ケ丘高等学校
3年
瓦田　隼仁

高校生活最後の玉竜旗、四回戦で五人抜きを達成することができました。大会前のチームの目標が最終日ベスト六十四に残ることでした。

自分の五人抜きでチームを最終日まで連れて行くことができて、主将としても何より嬉しかったです。



筑紫台高等学校
3年
赤星　海空

仲間が励まし支えてくれたからこそ達成できた五人抜きだと感じています。三年生最後の玉竜旗、憧れの舞台で五人抜きできたことを自信に繋げ、これからも自己研鑽に励んでいきたいと思います。



純真高等学校
3年
有吉　美結

この度、高校生活最後の玉竜旗大会で五人抜きを達成することができました。

私は小学校一年生から祖父と母の影響で剣道を始めました。高校に入学して毎日の稽古や多くの県外遠征を経験させて頂き、着実に力をつけることができました。自主練習を重ね、仲間や先生方にたくさんのことを教えてもらい、試合で試せるようになるまで稽古してきたことが、今回五人抜きという結果につながったと思います。試合では一戦一戦、目の前の相手に集中し、これまでの稽古で積み重ねてきたことを出し切る気持ちで臨みました。

試合中は仲間の声援が力となり、最後まで自分らしい剣道ができました。

これまで剣道を続けられたのは、指導してくださった先生方や苦楽を共にしてきた仲間、そしていつも支えてくれた家族のおかげだと強く実感しました。これからも剣道に携わっていきたいです。



福岡常葉高等学校
2年
夕田　花恋

私は玉竜旗大会においてずっと目標としていた五人抜きを達成することが出来ました。

この玉竜旗大会という大きな全国大会で五人抜きを達成することができ、うれしく思う

のと同時に感謝の気持ちで胸がいっぱいです。今年の玉竜旗こそは絶対五人抜きという目標で日々の練習に取り組んできました。この五人抜きという目標を達成出来たのは毎日の練習につきっきりで見て、教えて、稽古をしてくださった先生方のおかげであると同時に、この日まで私の一番近くで応援をしてくださった家族、そして保護者の方々のおかげであり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

試合前で緊張してしまったときには、先生がいつも言っていた「稽古は、試合のように。試合は、稽古のように。」という言葉を思い出し試合に挑みました。その言葉のように試合は稽古のように自信をもって挑むことができ五人抜きを達成することができ本当に良かったです。これからもこの言葉を忘れず日々の稽古に取り組んでいきます。



久留米大学附設高校
1年
石井　琉子

私は中学の部活で剣道を始めました。最初は試合で全く歯が立たず、大会の度に悔しくて泣いてばかりでした。ただ、一生懸命取り組むほど、剣道は面白く、先生や先輩方から教わり技を磨き、道場や錬成会で出会った多くの仲間から刺激をもらい、頑張ってきました。

初めての玉竜旗の初戦ではいい流れで先輩に繋ごう、チームで一勝したいという気持ちだけで臨み、結果として五人抜きできたことは自分でも驚きです。これからも、日頃からご指導くださる先生方や仲間、支えてくれる両親への感謝を忘れず、生涯剣道を目指して美しい剣道を追求したいと思います。



若松高等学校
1年
寺岡　実優

玉竜旗で五人抜きを達成することができ、とても嬉しかったです。

試合前に監督から「五人抜いてこい」と言われ、その言葉を聞いて「自分がやってやる」と強く思いました。

上段を始めてまだ二ヶ月ほどでしたが、五人抜きを達成できたことは、自分にとって大きな自信になりました。

ここまで頑張ることができたのは、決して自分一人の力ではありません。

指導してくださった先生をはじめ、応援してくださった保護者の方々など、支えてくださったすべての方に感謝しています。

これからも感謝の気持ちを忘れず、さらに成長できるよう稽古に励んでいきたいです。



八幡南高等学校
2年
篠原　　祈

玉竜旗という大きな大会で強豪校である対戦校に五人抜きを達成することができたのは、一戦一戦を強い気持ちで戦うことができたからです。

これは、楽しいときも苦しいときも一緒に笑い合い、支え合ってきた三年生がいたからです。三年生との最後の試合で、一試合でも多く勝ちたいという思いと家族や仲間の応援があったからだと思います。

来年も今まで支えてくれた人への感謝を忘れず、試合に挑みたいです。



小倉高等学校
3年
嶋田日菜子

一戦一戦、自分がチームを勝たせるという強い覚悟で臨みました。ここまで支えてくれた仲間や家族、先生の温かい応援に

背中を押され、最後まで戦い抜きました。

悔いのない最高の形で高校剣道を締めくくることができました。



筑紫台高等学校
3年
川上　心彩

五人抜きを達成できたことはこれまでの努力が形になった瞬間でした。苦しい時も仲間がいたからこそ、最後まで自分を信じて戦うことができました。支えてくださった方々への感謝の気持ちを胸に、これからも挑戦し続けたいです。



医科学安全委員会だより



医科学安全委員会
福重　哲志

足の痛み

足には片足だけで二十八個の骨があり、体全体約二百個の骨の四分の一が両足にあることになります。これらの骨の多くは関節を作り、じん帯や筋肉、腱で支えられています。足は小さな面積で体重を支えており、打ち込みの時には体重の十倍の力が足にかかるといわれています。足の骨とじん帯は内側、外側、横の三つのアーチ構造を形成し、このアーチ構造が衝撃を和らげるダンパーの役割を果たしており、かかと、親指の付け根、小指の付け根の三点で体重を分散し支えています。

アキレス腱断裂が剣道では多く発生することが知られていますが、その他にも剣道では捻挫や足底、かかとの障害を生じることが多いです。捻挫は足首を内側にひねることで生じることが多いじん帯の損傷ですが趾の骨折や腱の脱臼、足関節内の軟骨の損傷を伴う場合もあります。足首を外側にひねった場合にはより重症となることが多いです。

足底腱膜炎は繰り返しかかとから踏み込むことで生じることが多く足底でかかとから前方の痛みを生じます。朝の第一歩が特に痛むという特徴があります。かかとから踏み込むのではなく足底全体で踏み込むことが必要です。

踏み込んだ際の右かかとの痛みもよく見られる症状です。かかとの骨の挫傷や炎症が原因になります。この際も足底全体での踏み込みを行うことが大切です。

他の部位の痛みでも同様ですが、足の痛みの場合も痛みが続く場合には稽古を休むことが原則です。二週間程度休んでも痛みが軽くならない場合には医療機関を受診することをお勧めします。足の痛みが続く場合は複雑な足の構造に由来することが多いため一般の整形外科医ではなく足を専門とする整形外科医を受診してください。

足に対する日々のケアも大切です。足底腱膜のストレッチ、入浴時の足のマッサージなど大切な足に気を配ることも必要です。冬季の足底のひび割れ予防には市販のケラチナミン軟膏が有用です。水虫は白癬菌によるものですが石鹸での洗浄が予防に有用です。足指一本一本を含め足全体に愛情を込めて洗うことが大切です。



賛助会員募集

公益社団法人福岡県剣道連盟では、当連盟活動の趣旨に賛同し、事業を支援していただける団体（法人）様を募集しています。

当連盟活動の趣旨にご賛同いただき、賛助会員になられますと、

1. 当連盟の刊行物にお名前（企業・団体名）を掲載いたします。

※全ての刊行物ではございません。

2. 当連盟のホームページに「バナー」を設置し、リンクいたします。

賛助会員としてご支援いただける場合、福岡県剣道連盟ホームページ内「賛助会員のご案内」より入会申込書をダウンロード後必要事項をご記入の上、事務局宛にご送付ください。
追って、事務局よりお振込先の口座をご案内いたします。

【申込書送付先】
〒812-0045 福岡市博多区東公園8番3号
福岡武道館内
公益社団法人 福岡県剣道連盟 事務局

スマートフォン版は、こちらから読み取って下さい

現在、株式会社サエキジャパン　株式会社インターフォース　株式会社シーアンドイー
株式会社西日本新聞社　株式会社クラフティア（旧㈱九電工）　株式会社福岡銀行
株式会社西日本シティ銀行　西部ガスホールディングス株式会社　西日本鉄道株式会社
九州電力株式会社　九州旅客鉄道株式会社　有限会社オートリサイクルナカシマ福岡
ALPHA AUTO　髙嶋安全ガラス（株）　株式会社 葉隠
にご支援頂いております。（敬称略）

昇格・昇段



剣道範士
山田　雅士

すべての人に感謝

令和八年五月六日剣道称号審査会（京都）において、剣道範士の称号を受称いたしましたこと、誠に身に余る光栄に存じます。永年にわたりご指導くださいました諸先生方、共に稽古を重ねてきた先輩・後輩の皆様、そして剣道を通じてご縁をいただいた多くの方々のお支えがあって、今日の私がございます。ここに深く御礼申し上げます。

私は熊本県天草市（旧本渡市）の出身で、大学卒業後はサラリーマンとして全国を転勤した転勤族です。家族も帯同し、家族で剣道に精進してまいりました。振り返れば、東京、熊本、広島、埼玉、茨城、福岡、山梨、愛知県の剣道連盟に在籍し、地元の先生方・剣友にご指導をいただき感謝に堪えません。各県において、予選会、研修会、講習会、海外（韓国・台湾）遠征、国体強化訓練、都道府県対抗剣道大会等に参加させていただきました。この経験は、転勤族でなければ味わえない体験でした。また、昇段審査については、広島（六段）、埼玉（七段）、山梨（八段）で取得いたしましたが、地元での模擬審査会において、範士の先生方から、直接ご指導をいただいたことが忘れられない思い出です。この教えを胸に刻み、稽古に精進してまいりました。この多くの学びが、私を今回の受称に導いていただいたと確信しています。

範士の名に恥じぬよう、これまで以上に心身の鍛錬に励み、剣道の理念である「人間形成」の道を歩み続ける所存です。また、微力ではございますが、福岡県剣道連盟の発展に努め、後進の育成に尽力し、皆様から賜りましたご恩に報いるべく努めてまいります。

今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。



剣道八段
森嵜誠一郎

剣道の本質を求めて
―八段合格までの道程

令和八年五月二日、京都で開催された剣道八段審査会において合格を賜りました。これまでご指導くださった先生方に、心より御礼申し上げます。

振り返れば、社会人となってからの私は、試合に出るためだけに稽古を続けるような状態で、五段までは順調に進んだものの、剣道の本質を深く追求していたとは言えませんでした。二十九歳で六段審査に失敗し、その後インドネシア赴任が決まり、一時は剣道から離れることとなりました。

転機となったのは三十二歳のとき、ジャカルタで目黒雅男先生に出会ったことです。数年ぶりの稽古で、先生の剣には若さや速さだけでは全く通用せず、自らの未熟さを痛感しました。しかし同時に、「理合」「刀の思想」「相手を打つのではなく心を動かす」といった剣道の本質を学ぶ入口に立たせていただいたように感じました。この出会いを契機に剣道を一から見直し、二年後に六段、その後タイ赴任中に七段に合格することができました。

七段合格後は、十年後の八段合格を目標に据えました。

合格者の映像や著書を研究する中で、自分に不足していたのは構えの安定、打突との連動、そして懸待一致の境地であると考えました。左足荷重を軸とした崩れない構えを追求し、基本稽古や体力強化を継続するとともに、応じ技や攻防の理合を学び続けました。

その作業は、自らの剣道を意識的に作り替える長い道のりでした。

五十歳で初めて八段審査に挑戦して以来、三年間で九回の受審を重ねました。その過程で最も大きな気づきとなったのは、「勝負」ではなく「位」を重視することでした。打ちたいという欲を捨て、「いつで

も来い」という盤石な構えで相手を受け止める。そこから自然に技が生まれる状態こそが重要であり、相手を打つことよりも、相手の心を動かすことを意識するようになりました。また、ここぞという場面で身を捨てた大技を出し切る勇気、無駄のない所作や美しい残心も大切にしてきました。

八段合格に至る道とは、「剣道の本質」を学び、それに向かって生涯を通じて精進し続けることに尽きると感じております。足掛け三年、九回目の挑戦でようやく合格を許されましたが、これは決してゴールではありません。ようやく本当の修行の入口に立たせていただいたとの思いでおります。今後も段位に恥じることのないよう、更なる精進を重ねてまいる所存です。





剣道八段審査に向けて

剣道八段
関　郡寿

五月の京都審査会で剣道八段に合格させていただきました。

福岡県剣道連盟八段受審者研修会にも数回参加し、ご指導いただきました事に大変感謝いたしております。

僭越ながら八段審査に向け、私がご指導いただいた事、特に意識して取組んだ事を書かせていただきます。

○礼法、所作

礼法、所作を理解し、実践していくように努めました。礼法、所作を意識する事で気が充実していくのを感じ、普段の稽古でも徐々に礼から気迫十分で臨めるようになっていきました。

○攻防時・打突時の姿勢

攻め気を出した際に頭が下がったり、攻め入られた時に顎が上がったり、のけぞったりしてスムーズに打突・対応が出来ない事が多かった為、一人稽古で動作の確認・改善を行いました。また、打突時にも腰が落ちたり、頭が下を向いたりしていました。左足の引付けで打突の冴え・姿勢が大きく変わる事をご指導いただき、素振り・基本稽古から意識して取り組みました。

○力みの解消、脱力

先生方に稽古をお願いする際に気負い過ぎて力が入り、動こうとするところをよく打たれていました。また、良い打ちを出したい・打たれたくないと思う程余計な力が入り、思い切った打突が出来ませんでした。肚に力を入れ・手足の無駄な力を抜く事をご指導いただき、基本稽古の時から取り組みました。

①刃筋正しく打突ができているか
②機会と感じた時、力まずに技が出せているか
③打突後にも無駄な力が入らず、軽やかに残心までできているか
④握りや足先に力が入り、自ら勢いを止めてしまっていないか
⑤右足が上にあがらず前に出ているか

稽古の中でいかに力まず先記の動作ができているか、力まない中でも打突の「冴え」を重視し、試行錯誤を重ねながら励んでおります。

以上の点を特に意識して取り組んで参りました。しかしながら、全てが継続している課題でありますので、少しでも克服できるよう引き続き精進していく所存であります。

最後になりますが、これまでにご指導いただいた先生方、先輩方、稽古をつけてくださった剣友の皆様、そして素晴らしい稽古環境に恵まれた事に感謝いたします。今後は、八段としての剣道が確立できるよう稽古に励んで参りたいと思います。



居合道範士
國方　孝之

居合道範士拝受の栄に浴して

この度、令和八年五月の全日本剣道連盟称号審査会におきまして、居合道範士の称号を拝受いたしました。身に余る光栄であり、その責任の重さに身が引き締まる思いでございます。

熱心にご指導くださった師匠、諸先生方、共に汗を流した剣友の皆様のご支援の賜物であり、何より長年支えてくれた家族には感謝の念に堪えません。

私の居合道への歩みは、大分県別府市にて小学四年生の時に始めた剣道に端を発します。

転機が訪れたのは十五歳の時でした。当時、剣道をご指導頂いていた故教士七段安部忠先生が、少年剣道指導の後に、ご自身の居合を熱心に錬磨されるお姿を拝見したのです。日本刀への興味とともに、その凛とした佇まいに「かっこいい」と憧れを抱き、高校進学を機に安部先生に居合の手ほどきを仰いだのが始まりでございました。

大学卒業後、就職に伴い福岡、神奈川、広島、そして再び福岡へと転勤を重ねることとなりましたが、行く先々で居合道ができる環境と恩師に恵まれ、修行を継続することができました。

特に広島への転勤の際には、かねてよりご指導を仰ぎたいと願っていた故範士八段井手克彦先生との、運命的な出会いがありました。住居を探すため偶然入った不動産会社が、まさに井手先生の事務所だったのです。

この縁により師事させて頂くこととなり、温かくも厳しいご指導を頂きました。井手先生は道場での稽古や師弟関係においては大変厳格であられましたが、一歩道場を離れれば実に優しく、食事を共にする折には、技の理合のみならず、師弟の在り方や居合への取り組み方など、多くの貴重なお話を拝聴し、人間的にも成長させて頂きました。

その後、再び福岡へ戻ることとなり、井手克彦先生のご実弟である範士八段井手友太先生に師事し、福岡でも多大なるご指導とご教示を頂き、八段昇段、そしてこの度の範士拝受へと導いて頂きました。厳しくも温かいご指導を頂き続けたお陰で、今日の私があると深く感謝しております。

今後は範士の名に恥じぬよう、さらなる自己の研鑽に励むとともに、後進の育成ならびに居合道の普及と発展に向け、微力ながら尽力していく所存でございます。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



杖道八段
矢ヶ部龍一郎

原点回帰

令和八年五月の全日本剣道連盟杖道審査会におきまして杖道八段を拝受しましたことは、誠に身に余る光栄と感謝しております。何年も八段審査に挑戦できたのは、諸先生方のご指導をはじめ、共に稽古をしていただいた皆様のご支援の賜であり、衷心より厚くお礼申し上げます。

さて、杖道は、四尺二寸一部の白樫の丸木の棒を使います。木の棒は、人類が最初に用いた護身用の道具であり、戦国時代は、太刀や槍などの武術だけではなく、護身術として柔術や棒術などを身につけることは当たり前の事でした。

江戸時代には多くの棒術の流派がありました。杖道は、江戸時代の初め夢想夢想権之助が創始した神道夢想流杖術が元になっています。神道夢想流杖術は、権之助が宮本武蔵の太刀に対抗するために工夫し、体系化した技が伝承されてきたものです。

護身術としての空手に先手なしと言われるように、杖道も太刀に対して後の先で応じます。

刃のない丸木の棒は、前も後もなくどこでも握れることを利用して、間合いを自在に調整し、左右どちらからでも、手を滑らせながら打突します。槍、薙刀、太刀を合わせたような技の多彩

さ、柔術のような体捌きで様々な急所を攻めて身を守ります。

一時〝なんば歩き〟が話題になりましたが、現代人には昔の日本人の歩き方すらわからなくなり、今でも多くの人が研究しています。杖道でも、杖で太刀を打ち落とすとき〝鍬やナタを振るように〟などの表現で指導されることがありました。かつては当たり前だった日常生活動作が、生活様式の変化と共に当たり前ではなくなり、技の伝承や普及を難しくしています。しかし、だからこそ〝なんば歩き〟の謎解きのように、杖道の稽古に魅力を感じるのかもしれません。

八段を目指す稽古は、何度も何度も基本を見直す稽古であり、温故知新そのものでした。杖道の伝承、普及発展に尽力された先師に感謝し、初心を忘れず精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



昇格・昇段

昇格

剣道「範士」（令和八年五月六日）

山田　雅士

剣道「教士」（令和八年五月六日）

高井　正敏
長濵　洋
石井　豊勝
花田　進一
髙橋　雄一
田中　直樹
山下　竜司
加治慶二郎

黨　智
野村　卓司
今村　剛
折居　奨太
山本雄二郎
木村　好孝
富松　資国

剣道「錬士」（令和八年五月六日）

根笈　清
鳥越　弘幸
石丸　誠
山田　秀己
水落　宗嗣

寺田　貴之
齊藤　太
中嶋　裕二
佐藤　康成
岡部　麻子

居合道「範士」（令和八年五月三日）

藤井久美枝
小金丸卓哉
中村　公治
小賦　崇
今泉　健太
川路　毅
上野由香子
吉村　勇希
森　遼太郎

髙野　陽信
西原　芳弘
鳥尾　聖也
山林　由敬
井上　直毅
菊谷　将志
永市　智紀
中嶋　輝

居合道「教士」（令和八年五月三日）

國方　孝之

居合道「錬士」（令和八年五月三日）

坂田　義文

井手烈太郎

杖道「教士」（令和八年五月三日）

田邊　道子
成定　裕造

MACADRE ARNAUD

杖道「錬士」（令和八年五月三日）

坂元　博美

瓜生　宗慶

昇段

剣道「八段」（令和八年五月二日）

関　郡寿

森嵜誠一郎

剣道「七段」（令和八年四月三十日）

打越　亨

剣道「七段」（令和八年八月一日）

川副　関也
村田　泰
石丸　誠
白水　健一
財津　紀子
城戸　龍男
久米　昌宏
阿南　裕介
麻生　圭介
市丸　真也
成富　英雄

三島　仁志
重冨　一寿
會所　直樹
占部　大彦
伊達　鑑
松野　智朗
上村　一真
野尻　恭平
金成宗次郎
田村　和成
小森　敏也

五段以上合格者

剣道「六段」（令和八年四月二十九日）

堀下　久

剣道「六段」（令和八年八月二日）

宮内雄次郎
八百谷朋子
寺崎　信一
川原　亘平
有持　正信
西村由紀子
中村　隆
太田　裕之
北原　貞治
案浦　弘継
ミラー智子
角アルチョム
宇佐原英之
續　英司
中村　朋子
塚本　久志
大坪　正実
棚町　寿
吉田　敦
百田　光男
小出　好討
前田　浩伸
髙松　伸治
江崎　彰太
坂元　慎司
弓畑　康平
田中　誠
佐竹　遼司
川尻　勝広
海野　恭央
朝廣　雄一
瀬尾　光一
庄村　國博
髙山　輝
福田　啓幸
井上　翔太
小林　長充

居合道「七段」（令和八年三月八日）

金城　和枝
金村　真理

居合道「六段」（令和八年三月八日）

村上　洋祐
村瀬　義則

居合道「五段」（令和八年三月一日）

髙柳　守男
坂元　博美
中嶽　瑞穂

杖道「八段」（令和八年五月三日）

矢ヶ部龍一郎

杖道「七段」（令和八年八月二十八日）

城台　順子
宮原　芳樹

杖道「六段」（令和八年八月二十八日）

石田　絹枝
横田　靖子
謝　金木



編集後記

七月の令和八年熊本地震そして八月に石川、富山での大水害が発生しました。また国内外至る所で災害が起こっています。悲しくもお亡くなりになられた方々には心よりご冥福をお祈りしますとともに被災された方々の一日も早い復旧・復興を願ってやみません。

さて、私たち広報委員会では廣房・今井氏のお二人を新しいメンバーに迎えて今年度の活動がスタートしました。「剣脈」の発行は年二回（十月・三月）の発行です。委員会としましては皆様に親しんで読んでいただけるようにと取組んでいます。今年度は新しい取り組みとして武道人口減少による活性記事として県内各道場の紹介、女性活動の紹介等、幅広い情報発信を考えてみたいと考えています。

最後に剣脈に関してのご意見やご希望があれば福岡県剣道連盟事務局までご連絡ください。

（広報委員会：金子、鬼木、本多、石井、廣房、今井）

